

令和6年度 高鍋農業高校学校評価表

部	重点目標	自己評価	学校関係者評価	講評
学校全体	1 専門教育の充実 充実した施設設備を活用した専門性の深化、GAP・HACCP 教育・有機農業学習の推進、農産物のブランディング、模擬会社「高農」の経営実践の充実、高大連携、地域連携によるプロジェクト学習の充実	B	A	学校の自己評価はやや低いように感じる。各部の評価を考えると妥当な評価であると考え
	2 心豊かな人間性の育成 ライフスキルの内容充実、学校と寮が一体となった教育寮としてのさらなる充実、人権意識高揚、公衆衛生意識の向上、美化意識の高揚、部活動をととした自己実現と社会性の向上	B		
	3 確かな学力定着 カリキュラムマネジメントの実践、個別最適な学びの実践、個々に応じた指導支援活動の充実、ICT を活用した教育の推進及び研修の充実、進路指導をととした自己実現、キャリア教育の充実、寮での基礎学力向上	A		
	4 広報活動の充実と展開 地域連携・地域貢献 生徒募集のための広報活動の充実と情報発信、地域連携・地域貢献、地域と連携した安全教育の推進、防災及び防疫体制の充実、ボランティア活動の推進、幼少中学校との連携、PTA 活動の充実	A		

	部	重点目標	具体的な取り組み	取組詳細	自己評価	学校関係者評価	講評
I	教務部	1 カリキュラムマネジメントの実践	カリキュラムの円滑な実践のため、時間割編成及び日課・行事の計画を適切に行う。	本校の特色を生かしたカリキュラムを作成し、適切な時間割・日課・行事予定の作成を行うことができた。また反省を踏まえ次年度の行事予定を立案することができた。	A	A	教科横断的な取組が非常に素晴らしい。是非とも次年度も推進していただきたい。
		2 ICTを活用した教育の推進及び研修の充実	情報機器の適切な管理運営に努める。	情報機器の整備をはじめ、諸研修の実施を通して ICT 授業実践力の向上を図ることができた。	A		
		3 個別最適な学びの実践	ICTを活用した授業研修を実施する。	諸研修の中で ICT 授業の実践を行い、評価の見直しも進めることができた。	A		
II	生徒指導部	1 周囲の生徒に対して適切な言葉遣いができる能力の育成	毎月1回、クラスメイトの言葉遣いについてアンケートを実施。担任・副担任と連携し、いじめ等防止に努める。	担任の負担を考慮してアンケートの実施までは至らなかったが、学年会の報告を受けたり、直接情報交換を行うことで、いじめ等を最小限に抑えることができた。	B	A	自己評価は低いようだが普段の挨拶や販売会での生徒の様子は高く評価できる。
		2 生活環境と自分自身の身だしなみを主体的に正せる意識の高揚	教室や靴箱、身だしなみ等について、月に1回程度の生指部連絡を行い、日頃からの美化意識に努めさせる。	定期的ではないが明倫の時間や朝の SHR 時に巡回をして気になる生徒に声を掛けたり、臨時の連絡を入れたりすることで日常の見直しをすることにつながった。	B		
		3 部活動を通じた社会性の向上	社会性の向上に努めさせるために、学期毎に部活動生集会を1回実施し、職員・生徒の情報交換を行う。	生徒を集めての集会をすることはできなかったが、日常の生徒への声掛け、部顧問との情報交換で生徒との関わりを深めることにつながった。	B		

	部	重点目標	具体的な取り組み	取組詳細	自己 評価	学校 関係者 評価	講評
Ⅲ	進路指導	1 3年間を見通した進路指導による進路意識の向上を図る。	校内外での進路ガイダンス参加や進路希望調査の実施を定期的に行い、3年間を見通した進路意識の向上を図る。	・3年間の進路指導計画の練り直し、計画表の作成 ・進路ガイダンスの精選 ・handy 導入による説明会等の実施	A	A	入学時から徐々に力をつけ、多くの生徒が県内に就職・進学をしている。是非宮崎を支えて欲しい。
		2 個々に応じた細やかな進路相談と早期の進路指導による進路決定 100%を目指す。	一般常識・SPIテストや小論文・作文模試などを活用し、基礎学力の向上を図る。	・校外模試等の精選、活用 ・進路サポートブックの早期完成と指導の充実 ・進路決定100%を達成できなかった。	B		
Ⅳ	農務部	1 学科の特性を活かしたプロジェクト学習や資格取得の推進	農業クラブ活動の充実を図ると共に、資格取得の励行に努める。	県大会では意見発表で1位、全国大会では農業鑑定で3名が優秀賞と健闘した。 資格取得ではアグリマイスタープラチナが県内で1名。ゴールドは2名と健闘した。 今後の取組も続くためBとしている。	B	A	各種資格取得にも確実に取り組んでいるようだ。販売会では地域の方々と触れ合う機会も多く、今後とも地域との協働活動を推進して欲しい。
		2 関連上級学校や地域社会との連携を深め、地域に根ざした特色ある農業教育を展開	高鍋町との連携や宮崎大学との高大連携を通して、地域課題発見・解決能力を付けさせる。	宮崎大学との連携は、一部の学科・部門にとどまっている。町との連携は今年度から新たに3カ年計画でフードビジネス科が実施している。農業大学校との連携は次年度に向けて計画的に取り組んでいる。実践途中のものが多いためBとしている。	B		
		3 時代や社会の変化に対応した質の高い専門性を追求できる活力ある農場運営に取り組む。	ICT を活用した農場経営や GAP・HACCP、有機農業など各学科が課題を持って取り組む。	生産部門はGAPが浸透しているが、次年度以降の取組について検討中。HACCPは食品・フードで実践中。今年度は新たに園芸科学科で有機JAS認定を受けた。今後も継続が必要のためBとしている。	B		
Ⅴ	寮務部	1 キャリア教育の推進に努める。	寮行事や委員会活動を通して、主体的に取り組む姿勢を育成するとともに、他の寮生と協力して課題解決に取り組む姿勢を育てる。	寮行事や委員会活動等において生徒が主体的に取り組める環境づくりに努めた。また、卒業生との意見交換会や外部講師による講演会を通して夢づくりに繋がる活動にも努めることができた。	A	A	寮での取組が、様々な学校での活動の基礎になっている。弁当への異物混入も、公表することで適切な対応をしていることがわかり信頼できる。
		2 美化意識及び学習意欲の高揚に努める。	朝清掃や夜の学習を通して、社会生活で必要とされる勤労観や自らを生かせる生き方について考え、最後まで粘り強く責任を持って取り組む姿勢を養う。	日常的な清掃活動の徹底を呼び掛けることで、自ら清掃に取り組む姿勢を養うことができた。一方で、学習時間の在り方（時間設定や内容）について検討を行ってきたが見通しを立てる所までには至らなかった。	B		
		3 生徒募集のための広報活動の充実と展開及び情報発信に努める。	寮内での活動について常時情報発信及び生徒募集のための広報活動の充実化を図る。	今年度は、寮内の活動の様子をHPだけではなく、YouTube や X(Twitter) での配信をスタートさせた。今後も寮行事や寮生の様子について配信するなどして、本校・寮を知ってもらう機会を増やしたい。	B		